

HEIBON
SHA'S
WORLD
ENCYCLO
PEDIA

世界 大百科 事典

百科
データブック

平凡社



世界大百科事典 百科 データブック

1983 年 4 月 20 日 初版発行
1983 年 印刷
定価は第 1 巻に表示してあります

編集兼発行人 下中邦彦
発行所 平凡社
郵便番号 102
東京都千代田区三番町 5
振替東京 8-29639 番
電話 03 (265) 0451 番

本文用紙 十条製紙株式会社
見返用紙 日清紡績株式会社

本文写植製版 株式会社ハナマチック・センター
本文印刷 株式会社東京印書館

クローズ ダイニック株式会社
表紙箔押 斎藤商会
製本 和田製本工業株式会社

《百科データブック》について

《世界大百科事典》は長年にわたって読者のみなさまのご愛顧をいただいてまいりましたが、1981年版以降、1970年代の事象を追補する《現代》の1巻を設け、また装丁も一新いたしました。その後、多くの方々から、〈本巻〉〈年鑑〉と併読してよりその機能を高める〈便覧〉ないし〈データブック〉を、とのご希望が寄せられました。

〈便覧〉は、家庭においても仕事や学習においても、必要に応じて情報を即座に得ることができ、いわば〈生活ハンドブック〉というべきものです。現在、統計・資料・記録などを掲載するものとして各種の〈年鑑〉や〈要覧〉がありますが、それらは文字と数字が羅列された、調べにくい、親しみをおぼえないものがほとんどです。一方、家事、趣味などさまざまな分野にわたる日常生活の実用に供するものに、〈生活百科〉〈実用ハンドブック〉といったものが各種刊行されていますが、これらもまた、狭い範囲の簡便な知識を提供するにとどまっています。日本には、あらゆる分野の情報を体系づけて示し、しかも読みやすく親しみやすいようにつくられた本格的な〈便覧〉は皆無であるといえましょう。

《百科データブック》は、こうした要請にこたえるものとして編集されました。第I部は私たちが生きてきた時代を顧みるために必須のデータである〈昭和史〉の年表であり、第II部は〈分野別データ編〉11部門80分野におよぶ情報を体系的に示した〈便覧〉であり、基礎的データとともに、たのしい話題を数多く掲載してあります。第III部〈資料編〉は、憲法全文、常用漢字表、単位表、世界各国のデータ、日本の都道府県市町村のデータ、紀年対照表などからなる基礎資料です。《百科データブック》を〈本巻〉〈年鑑〉とあわせて利用することによって、暮らしに必要な情報を的確にとりだし活用することが可能になると思います。

1983年5月

平凡社社長 下中邦彦

①——第I部〈昭和史年表〉、第II部〈分野別データ編〉、第III部〈資料編〉からなり、各部ごとに独立したページ数を付してある。

②——第I部〈昭和史年表〉は、1926年(昭和1)から1981年(昭和56)までの事象を1年2ページにまとめ、各年とも、政治、経済、国際、文化、社会、世相の六つの欄に分かれている。

◎——世相欄は、昭和史の大きな流れのなかの瞬間をなまなましい証言と写真でとらえた欄であり、他の年表にはない独自のものである。

◎——国際欄では、該当する国名を〔 〕で示した。なお、国名には以下の略語を用いた。

アメリカ＝米、イギリス＝英、イタリア＝伊、フランス＝仏、ドイツ＝独、ソヴェト連邦＝ソ、中国＝中、オーストラリア＝豪、フィリピン＝比、南アフリカ連邦＝南ア、朝鮮民主主義人民共和国＝北朝鮮。

◎——重要事項はゴシック書体で示した。

③——第II部〈分野別データ編〉は、11部門80分野のテーマに分かれ、各テーマの基礎的なデータを表とグラフで示し、ほかに、解説、コラム、ミニ知識(下欄)を設けた。

◎——各ページの表には、統計のほか、年表形式のもの、ベスト10のように順位を示したもの、歴代記録のような一覧形式のものなどが含まれている。

◎——各分野の冒頭に大きな活字で解説をおき、基本的な概念や全体像を簡明にまとめた。解説に続くコラムは、表や図とも関連はしているが、ひとつひとつが独立しており、それだけおもしろい話題、意外な知識を得ることができるとあろう。

④——第III部〈資料編〉は、日常生活に必須不可欠の基本資料である。

◎——日本国憲法全文や単位表、常用漢字表、紀年対照表などは、学習にも役立つはずである。

⑤——用字・用語は原則として現代かなづかい、常用漢字を用いた。

◎——外国語の表記は、本巻の表記(第1～32巻の各巻の第1ページに示す)に準じたが、慣用の読み方に従った場合もある。

◎——動・植物名、元素名、化学物質名などは原則としてかな書きとした。

◎——年代は、原則として西暦紀元を用い、必要に応じて日本暦年をつけた。

【目次】

まえがき	i
目次	ii
利用の手引き	iv
I 【昭和史年表】	i
II 【分野別データ編】	ii
III 【資料編】 【紀年対照表】	iii
【索引】	iv

1946	昭和21年	142
1947	昭和22年	144
1948	昭和23年	146
1949	昭和24年	148
1950	昭和25年	150
1951	昭和26年	152
1952	昭和27年	154
1953	昭和28年	156
1954	昭和29年	158
1955	昭和30年	160
1956	昭和31年	162
1957	昭和32年	164
1958	昭和33年	166
1959	昭和34年	168
1960	昭和35年	170
1961	昭和36年	172
1962	昭和37年	174
1963	昭和38年	176
1964	昭和39年	178
1965	昭和40年	180
1966	昭和41年	182
1967	昭和42年	184
1968	昭和43年	186
1969	昭和44年	188
1970	昭和45年	190
1971	昭和46年	192
1972	昭和47年	194
1973	昭和48年	196
1974	昭和49年	198
1975	昭和50年	100
1976	昭和51年	102
1977	昭和52年	104
1978	昭和53年	106
1979	昭和54年	108
1980	昭和55年	110
1981	昭和56年	112

II【分野別データ編】

くらし

1 着る	II 2
2 食べる	II 6
3 住む	II 10
4 からだ	II 14
5 家族	II 18
6 家計	II 22
7 生活時間	II 26

社会

1	環境・公害	II 28
2	火災・消防	II 30
3	犯罪	II 32
4	人口	II 37
5	労働	II 40
6	社会保障	II 44
7	新聞	II 50
8	放送	II 54
9	出版	II 58
10	広告	II 62

文化

1	文化賞	11	66
2	ことば・文字	11	74
3	教育	11	76
4	日本史	11	78
5	宗教	11	86
6	文学	11	88
7	美術	11	92
8	音楽	11	96
9	映画	11	100
10	演劇・芸能	11	104

スポーツ

1 日本人とスポーツ	II 108
2 オリンピック	II 109
3 野球	II 110
4 相撲	II 118
5 ゴルフ	II 122
6 競技記録	II 126

娯楽

1 囲碁・将棋	II 136
2 競馬	II 139
3 釣り	II 142
4 旅行	II 144

交通・通信

1 交通運輸	II 148
2 自動車	II 152
3 船	II 156
4 飛行機	II 158
5 鉄道	II 160
6 道路・橋・トンネル	II 163
7 電話・電信・電報	II 166
8 郵便	II 168

自然科学

1 数学	II 170
2 物理・化学	II 174
3 天文	II 178
4 地球	II 184
5 気象	II 190
6 動物・植物	II 196
7 科学技術史	II 206

エネルギー

1 資源とエネルギー	II 210
2 石油	II 211
3 石炭	II 212
4 天然ガス	II 213
5 原子力	II 214
6 電力	II 215

経済

1 日本の経済	II 216
2 財政	II 218
3 通貨・金融	II 222
4 貿易・国際収支	II 226
5 企業・経営	II 230

産業

1 日本の産業	II 234
2 農業	II 236
3 林業	II 244
4 水産業	II 246
5 鉱業・冶金業	II 248
6 繊維・食品・建設業	II 250
7 化学工業	II 252
8 機械工業	II 254
9 商業	II 258

政治

1 国会	II 260
2 選挙	II 262
3 政党	II 266
4 内閣	II 268
5 行政	II 270
6 外交	II 272
7 軍事	II 274
8 司法・裁判	II 278

III [資料編]

1 憲法・憲法問題年表	III 2
2 常用漢字表	III 5
3 暮らしのなかの単位	III 18
4 世界各国の主要統計	III 20
5 都道府県・市町村要覧	III 38
6 国宝一覧	III 70
7 特別史跡・特別名勝・特別天然記念物	III 76
8 大学一覧	III 79
9 主要図書館一覧	III 87
10 主要博物館・美術館一覧	III 91
11 主要動物園・水族館・植物園一覧	III 96

紀年対照表	III 99
-------	--------

くらし
II 2社会
II 28文化
II 66スポーツ
II 108娯楽
II 136交通・通信
II 148自然科学
II 170エネルギー
II 210経済
II 216産業
II 234政治
II 260資料編
III

紀年対照表

索引

I [昭和史年表]

1926 昭和1年 (大正15年) — 2	1946 昭和21年 — 42	1966 昭和41年 — 82
1931 昭和6年 — 12	1951 昭和26年 — 52	1971 昭和46年 — 92
1936 昭和11年 — 22	1956 昭和31年 — 62	1976 昭和51年 — 102
1941 昭和16年 — 32	1961 昭和36年 — 72	1981 昭和56年 — 112

1926 昭和1年(大正15年)

[注] ―― 総理大臣の臨時代理は省略した。

政治

1. 15―鳩山一郎ら、政友本党を脱党し同交会を組織。2. 12同交会、政友会に合流。
1. 26―加藤高明首相、重態で首相代理に若槻礼次郎内相を任命。
1. 28―加藤高明首相死去。内閣総辞職。
1. 29―若槻礼次郎、憲政会総裁に就任。
1. 30―第1次若槻内閣成立。
2. 11―赤尾敏右翼、在郷軍人会などで第1回建国祭挙行。
2. 16―政府、労働組合法案を衆議院に提出(審議未了)。
2. 28―大阪・松島遊郭移転にからむ疑獄事件起こる。4. 30箕浦勝人前連相起訴。
3. 4―中野正剛、衆議院で田中義一のシベリア出兵陸軍機密費横領事件を追及。
3. 5―大阪で労働農民(労働)党結成(委員長杉山元治郎)。
3. 25―大審院、大逆罪首謀容疑で朴烈・金子文子夫妻に死刑判決。4. 5無期懲役に減刑。7. 23金子自殺。7. 29北一輝作製といわれる2人の怪写真配布。8. 27同事件で北一輝逮捕。
4. 9―労働争議調停法・治安警察法改正各公布(後者で、ストライキの誘惑・扇動を処罰する第17条・第30条を削除)。
4. 10―暴力行為等処罰に関する法律公布。
4. 18―労働党中央委員会、左派の要求する門戸開放をめぐる対立。7. 27左派4団体員の入党を拒否。10. 24総同盟などの右派、門戸開放に反対して労働党を脱退。戦線分裂。
6. 24―府県制・市制・町村制・北海道会法改正各公布(普選制を導入、自治権を拡大)。
9. 3―浜松市会議員選挙(日本初の普選)。
10. 1―陸軍省に整備局設置(軍備の近代化・軍需工業の指導に当たる)。
10. 17―日本農民党結成(日本農民組合右派の結集。幹事長平野力三)。
10. 17―関西民衆党結成。
10. 19―議院解散請願運動全国協議会結成。
10. 21―長慶天皇の在位を確認する詔書。
11. 4―安部磯雄・吉野作造ら、〈堅実な〉無産政党結成を呼びかけ、総同盟、支持決議。
11. 7―若槻首相、松島遊郭移転疑獄事件で証人として検問。
12. 4―日本共産党、山形・五色温泉で第3回大会を開き党中央再建。
12. 5―社会民衆党結成(労働党脱退の総同盟など右派の結集。委員長安部磯雄)。
12. 9―日本労働党結成(総同盟反幹部派と日本農民組合脱退派の結集。書記長三輪寿壮)。
12. 12―労働党大会。委員長に大山郁夫を選出し再組織。
12. 14―政友会・政友本党の提携成立。
12. 24―第52通常議会召集(〜27. 3. 25)。
12. 25―(大正)天皇没。摂政裕仁親王踐祚、昭和と改元。
12. 28―天皇、西園寺公望に元老として輔弼せよと勅語。

経済

1. 7―大蔵省、1925年度貿易実績発表(輸出23億500万円、輸入25億7,000万円)。
1. 12―東洋レーヨン設立。
2. 10―大蔵省、今後10年間の財政計画を発表。
2. 23―浜口雄幸蔵相、議会で金解禁時期尚早と言明。
3. 6―対ソ北樺太利権契約による石油石炭探掘を目的とする帝国株式会社に關する件公布。
3. 10―日本郵船、第二東洋汽船を合併(同月、ホンコン・サンフランシスコ航路開始)。
3. 10―川崎造船所、以後の主力潜水艦となるイ1号を竣工。
3. 17―日本レイヨン設立。
3. 27―所得税法改正・地租条例改正・営業収益税法・資本利子税法各公布。
3. 29―震災手形割引再延長法公布。
3. 29―輸出生糸検査法公布。
3. 30―日本興業銀行・台湾銀行・朝鮮銀行の対華借款関係債務の整理に関する法律公布(いわゆる西原借款の後始末)。
3. 30―郵便生金法公布。
4. 6―海軍軍縮実施に伴う損害補償法公布。
4. 22―大日本地主協会、全国地主大会を開催。
4. ――為替相場高騰により生糸・綿糸市況悪化。
5. 20―南満州電気の設立認可(満鉄の電気事業の分離)。
5. 21―農林省、自作農創設維持補助規則公布。
5. 22―満鉄鉄業部鞍山製鉄所、第1還元炉に火入れ、貧鉄処理の新方式に成功。
5. 25―小作調査会官制公布。
6. 16―鉄鉄共同組合設立(原料の共同購入、製品の共同販売のための組織)。
6. 24―倉敷絹織(のちの倉敷レイヨン)設立。
8. 28―東京商業会議所など京浜地区経済5団体、震災手形救済に關し政府へ陳情。
9. 1―住友伸銅鋼管設立(のちの住友金属工業の前身の一つ)。
9. 13―日本航空、大阪〜大連間定期航空便を開始(初の海外定期空路)。
9. 28―大蔵省、金融制度調査会規則発表(10. 12第1回総会)。
9. ――貿易不振・為替高などにより株式・生糸・綿糸相場が暴落。
10. 4―日銀、公定歩合を2厘引き下げ(1銭8厘)。
10. 15―政府、正貨現送再開声明(金解禁準備とみなされ、対米為替上昇)。
10. 16―正貨現送再開、第1回400万円米国向けに現送(1927年4月までに15回、計6,000万円現送)。
11. 12―日銀、帝国蚕糸倉庫に対し、生糸救済資金2,250万円を融資。
11. 17―蔵相・日銀総裁・横濱正金銀行頭取ら、金解禁問題で会談。
11. 18―豊田自動織機製作所設立。
11. 20―政府・日銀、鈴木商店・日本製粉救済のため台湾銀行を通じての融資を決定。
12. 18―生糸相場暴落により、全国の製糸会社操業停止(12. 31まで)。

国際

1. 3―〔ギリシア〕共和派のバンガロス将軍、クーデタにより独裁権掌握。
1. 4―〔中〕広東で国民党2次大会開催。西山派(右派)除名。汪兆銘・蔣介石ら実権を握る。中共黨員、執行部に進出。
3. 16―英米仏日など8ヵ国公使団、大沽・天津間の戦闘停止の最後通告。3. 17中国側受諾。
3. 18―〔中〕段祺瑞、軍閥反対のデモに発砲し死傷者多数(3・18事件)。
3. 20―〔中〕蔣介石、広州に戒厳令を公布。軍事クーデタの陰謀ありとして中山艦艦長李之竜ら中共黨員を逮捕(中山艦事件)。
4. 22―イラン・トルコ・アフガニスタン、相互安全保障条約に調印。
4. 24―独ソ友好中立条約(ベルリン条約)調印。
5. 1―〔英〕炭鉱スト始まる。5. 3支援全国ゼネスト(275万人参加)に発展。5. 12ゼネスト中止。11. 19炭鉱スト敗北。
5. 2―〔ニカラグア〕自由派の反乱起こる。
5. 5―〔独〕帝政時代の国旗を通商旗とする大統領令公布。
5. 12―〔ポーランド〕ピルスツキのクーデタ起こる。
5. 15―〔中〕蔣介石、中共黨員の活動を制限する党務整理案を国民党中執に提出。
5. 28―〔ポルトガル〕軍部クーデタ起こる。
6. 6―〔朝鮮〕京城で天道教弾圧開始。
6. 10―〔朝鮮〕反日万歳示威運動起こる。
7. 15―〔仏〕ブリアン内閣総辞職。7. 28ボワンカレー団一致内閣成立。
7. 27―〔中〕蔣介石、北伐宣言(9. 6漢陽、9. 7漢口、10. 10武昌、11. 7南昌占領)。
7. 28―米・パナマ条約調印。
8. 22―〔ギリシア〕コンディリス将軍、バンガロス独裁政権打倒。
9. 8―〔独〕国際連盟に加入。
9. 11―〔スペイン〕国際連盟脱退(28. 3. 22復帰)。
10. 2―〔ポーランド〕ピルスツキ、首相就任、独裁権掌握。
10. 10―〔ルーマニア〕民族党と農民党合併、民族農民党結成。
10. 19―〔英〕英帝国会議開催。本国と自治領の平等、国王への共通の忠誠を宣言。
10. 23―〔ソ〕共産党中央委員会、トロツキー・ジノヴィエフを追放。
11. 26―〔中〕国民党左派、武漢遷都を決定。
11. 27―伊・アルバニア、第1次ティラネ条約に調印。伊、アルバニア内政不干渉を約す。
11. ―ジャワで共産党反乱。
12. 1―〔中〕張作霖、安国軍總司令に就任。
12. 16―〔独〕社民党議員シャイデマン、国会で独ソ軍事協力を暴露。
12. ―コミンテルン、〈中国問題に關する決議〉で、〈労働者・農民および被圧迫階級による民主的独裁制〉の方針を指示。
12. ―〔中〕国民党左派と中共、武漢政府を樹立。

文化

1. 2—日農連が農民青年学校開校(新潟県新発田)。
1. 7—文芸家協会設立。
1. 15—京大など全国の学生社会科学連合会の学生選挙(初の治安維持法適用(京都学連事件))。
1. 一川端康成《伊豆の踊子》。
1. 一柳宗悦、日本民芸協会設立。
2. 12—福本和夫《社会の構成並に改革の過程》。
3. 22—《唯物史観と中間派史観》、5. 27—《経済学批判の方法論》、11. 20—《理論闘争》、27. 1. 17—《方向転換》。
2. 15—村山知義《構成派研究》。
2. 19—全国連合女子教育大会開催(教育の機会均等など要求)。
2. 一全日本写真連盟結成。
3. 25—弘文堂《マルキシズム叢書》(全22巻)。
4. 7—全日本心理学大会開催、日本心理学会の設立を決定。同月《心理学研究》創刊。
4. 22—小学校令改正公布(日本歴史を国史と改称)。
4. 一中野重治・窪川鶴次郎ら、《驢馬》創刊。
5. 1—東京府美術館落成(設計岡田信一郎)。
5. 9—東京人類学会、千葉県姥山貝塚へ遠足。
5. 13—東大人類学教室、堅穴住居跡を発見(石器時代研究の端緒)。
5. 15—一九三〇年協会結成、第1回展(日米ビル、小島善太郎・里見勝蔵ら)。
5. 29—岡田良平文相、学生の社会科学研究禁止を通達。6. 5—東大・早大で抗議行動、学生自由擁護連盟結成。6. 28—全日本学生自由擁護同盟結成。
5. 一藤森成吉《森茂左衛門》。
6. 15—矢内原忠雄《殖民及殖民政策》。
6. 23—東京音楽学院設立(47年7月国立音楽学校と改称)。
6. 25—三木清《バスカルに於ける人間の研究》。
6. 一香取秀真・板谷波山ら、日本工芸美術会結成(10月第1回展)。
8. 6—社団法人日本放送協会設立。
8. 29—人見絹枝、スウェーデンの第2回万国女子オリンピックで名誉賞。
9. 4—小林古徑《機織》(院展)。
9. 24—衣笠貞之助監督《狂った一頁》(衣笠映画連盟、無字幕映画、ドイツ表現主義・フランス印象主義の手法による)。
9. 一青野季吉《自然生長と目的意識》。
10. 2—音楽学会創立(会長新村出)。
10. 5—近衛秀麿、新交響楽団(新響)結成。
10. 16—平福百穂《荒磯》(帝展)。
10. 17—藤井健次郎、染色体の2重螺旋構造につき日本学術協会講演で発表。
10. 30—第3回太平洋学術会議、東京で開催。19ヵ国151人が出席。
10. 一神宮球場落成。
11. 2—杉野芳子、ドレスメーカー女学院創立。
11. 30—日本ラグビー協会設立。
11. 一《美術新論》創刊(33年11月《美術》と改称)。
12. 3—改造社《現代日本文学全集》刊行開始(63巻。円本時代始まる)。
12. 6—前衛座第1回公演(ルナチャルスキー《解放されたドンキホーテ》上演、築地小劇場)。
12. 一東京女子大・日本女子大の学生ら、女子学生社会科学連合会の結成を協議。27. 3. 27創立大会。
12. 一岸田国士《驟雨》初演(帝劇、沢村田之助ら)。

社会

1. 13—上野公園で、東京日日新聞社主催のこども博覧会開催。7. 1京都でも。
 1. 19—共同印刷職工2, 300人、操短に反対してスト。1. 20会社側は工場閉鎖、全員解雇。3. 18—争議団に12万円を支払う等で妥結。
 1. 20—安部磯雄・吉野作造ら、独立労働協会創立。
 1. 20—東京・京橋電話局で初のダイヤル式自動電話。
 1. 23—日本労働組合総連合結成。
 3. 11—日農第5回大会で、平野力三ら退場。
 4. 11—平野ら全日本農民組合同盟を結成。
 3. 19—東京府西栗鴨で大火、597戸焼失。12. 11—静岡県沼津町で763戸。
 4. 9—労働争議調停法公布。
 4. 24—青森・函館間電話が初開通。
 4. 25—東京駅・上野駅でドイツ製入場券自動販売機を使用。
 4. 26—浜松の日本楽器職工1, 200人が待遇改善要求のスト。
 5. 5—新潟県水崎村で4年目の小作争議が激化、警官隊と衝突、28人検挙。
 5. 24—北海道の十勝岳が噴火、死者144人。
 7. 18—長野市で県下警察署統合廃止反対県民大会、1万数千人が知事官舎、県会議事堂に乱入、862人検挙。
 8. 1—全日本無産青年同盟第1回全国大会。
 8. 6—同潤会が東京・向島に中ノ郷アパート(初の公営鉄筋)を完成。
 8. 20—千葉県久賀村で3人殺害の岩淵熊次郎が山林に逃亡し連日山狩り。9. 11張り込みの警官殺害。9. 30自殺(鬼熊事件)。
 8. 31—前年9月より航空機事故15件(死者22人)。
 9. 14—娼娼運動に反対の全国貸座敷業連合代表が、娼清会・矯風会に押しかける(この頃東京市内の娼妓1万5, 000人)。
 9. 23—広島県安芸中野駅付近で下り特急列車転覆、死者34人。
 9. 28—京浜線省線電車で自動ドア登場。
 10. 9—石川島造船の神野信一ら日本主義労働運動を開始。
 10. 22—野球場などを含む明治神宮外苑完成。
 11. 1—鹿児島市で初の防火週間。
 11. 11—内務・文部両大臣、女子青年団組織化に関する訓令。
 11. 12—松本治一郎ら全国水平社幹部15人が福岡歩兵24連隊差別反対闘争で検挙。
 12. 3—総同盟が麻生久ら12人除名。12. 4—棚橋小虎ら日本労働組合連合結成(総同盟第2次分裂)。
 12. 20—労働党支持の評議会、日農などが統一運動全国同盟結成。
 12. 一正木不始丘が長野県富士見村に富士見高原療養所を開く。
- この年—アッパッパ、断髪(モダンガール(モガ)、オカマ帽子にラッパズボンのモダンボーイ(モボ)が出現。保険金目当ての放火(東京市内1~11月269件)。
- この年—流行語: <ラジオ> <文化住宅> <立ち入り禁止> <赤> <福本イズム> <麻雀> <十姉妹> <モダン> <アッパッパ>。
- この年—流行歌: 《ヨサホイ節》《関の五木松》《国境警備の歌》《ベニスの唄》《月は無情》《鬼熊狂恋の歌》《鉦をおさめて》。
- この年—映画: 《足にさはった女》《陸の人魚》《カラーボタン》《日輪》《黄金狂時代》《最後の人》《カルメン》。

世相

- 【<キング>150万部を突破】 25年1月付の創刊号から空前の75万部を売っていた<キング>は、都市化の波にマッチした立身出世の処世訓を説き人気を集め、号を重ねるたびに部数を飛躍させ、26年正月号では、150万部という記録を達成した。
- 【初のタクシー・ストライキ】 渡辺清<タクシードライバーが綴るバックミラー風俗史>によると、それは以下の様子だった。3月に大阪タクシー自動車従業員組合は「昼夜働く技術者である運転手の待遇を改善せよ」と会社側に交渉し、スト権を行使して1週間のストライキに入った。これがタクシー業界で最初の労働争議である。このストライキでは運転手の待遇改善が最大のテーマとなっているが、実際は、運転手の収入は月約100円以上と、けっして悪くはなかった。しかし、日ごろからの運転手と社員との差別待遇への不満が積っていた。これに対して、会社側は交渉にも調停にも応じないで、退職金を支給して全員解雇し、即日運転手募集を行って希望者を復職させた。
- 【鬼熊事件】 8月20日、千葉県香取郡久賀村で、荷馬車引の岩淵熊次郎(35歳)は情婦に新たに情夫ができたことを恨み、この2人を含む3人を殺害、放火。山中に逃げ込み連日山狩りが行われた。9月11日、さらに警官を殺害。逃走以来42日目の9月30日、先祖の墓前にかみそりで咽喉を切り自殺した。
- 【円本時代スタート】 10月19日、改造社の<現代日本文学全集>全63巻の広告出る。<善い本を安く読ませる!>この標語の下に我社は出版界の大革命を断行し、特権階級の芸術を全民衆の前に解放した。一家に一部宛を! 芸術なき人生は真に荒野の如くである。我々日本人は世界に、特筆すべき偉大なる明治文学を有しながら、英国人のセクスピアに於けるが如く全民衆化せざるは何故だ。これ我社が我国に前例なき百万部計画の壮図を断行して全国各家の愛読を俟つ所以だ。日本の第一の誇! 明治大正の文豪の一人残らずの代表作を集め得た其事が現代第一の驚異だ! そして一冊一千二百枚以上の名作集が唯の一円で読めることが現日本最大の驚異だ。当時単行本の定価は2~3円ぐらいで、その4冊分を収録して1円というこの全集は爆発的に売れ、<円本時代>を生み出した。11月30日の締切りまで予約申込み数は23万に達した。トータルとしては40万~50万部をかぞえた。
- 【モボ・モガ登場】 26、27年に軽佻・浮薄・享楽的な生活をする男女を軽蔑的に称したモダンボーイ、モダンガール、略して<モボ・モガ>が登場した。男はもみあげをのびし、チョビひげ、セーラーパンツやラッパズボン、オカマ帽子、女はショートカットにロングスカート、長い袖、ハイヒールというスタイル。カフェの女給などの水商売、軟派の女子学生、未亡人が多かった。昼すぎから夕刻にかけネオンとジャズの銀座を連れだって歩き、モダン文化の走りとなった。



●昭和初期の神田書店街。

1927 昭和2年

政治

1. 20—政友会・政友本党、内閣不信任案を上程。若槻首相、議会議場会場で窮地を脱し、田中義一(政友会)、末次竹二郎(政友本党)と3党首会談を行い、政争中止・解散回避を申合せ。
2. 19—政府、ジュネーヴ軍縮会議参加を決定。
3. 1—憲政会・政友本党、両党代議士会で憲本連盟を承認。
3. 3—明治節(11月3日)制定の詔書。天長節(4月29日)、大正天皇祭(12月25日)も決まる。
3. 14—片岡直温蔵相、衆議院で東京渡辺銀行破綻と失言(銀行取付続出し金融恐慌の引金となる)。
4. 1—兵役法公布(徴兵令廃止)。
4. 6—幣原外相、駐華公使に南京事件は外交交渉で解決と訓令。
4. 17—台湾銀行救済緊急勅令案、臨時議会で措置すべきこととして枢密院で否決。若槻内閣総辞職。
4. 20—田中義一内閣成立(政友会)。蔵相に高橋是清。
4. 28—労働党・日本労働党など、中国国民党駐日総支部の2月13日申入れを受けて、対支非干渉同盟準備会結成。
5. 3—第53臨時議会議召集(〜5. 8)。
5. 7—衆議院、枢密院弾劾決議案を可決。
5. 28—政府、山東省に出兵を声明し、満州駐在部隊に出動命令を下す(第1次山東出兵)。9. 8撤退。
5. 30—京都地裁、京都学連事件に対して治安維持法適用の初の有罪判決。
5. 31—政府、軍艦建造中の川崎造船所救済のために預金部資金3,000万円融資を決定したが、問題化。7. 8救済を放棄。
5. 31—対支非干渉運動全国同盟、第1回大会開催。
6. 1—立憲民政党結成(憲政会・政友本党合同、總裁浜口雄幸)。
6. 27—田中首相兼外相、陸海軍首脳、中国駐在外交官らを召集、東方会議を開催。対華方針決定。
7. 7—田中首相兼外相、東方会議最終日で満蒙の權益自衛を柱とする対支政策綱領を発表。
7. 15—コミンテルン日本問題特別委員会、〈日本問題に関する決議〉(27年テーゼ)決定。
8. 11—田中首相、閣僚・与党幹部懇談会で、地租の市町村移譲実施を言明。11. 10移譲を1年延期したため政友会幹部、辞表提出。11. 14辞表撤回。
8. 14—森格外務次官、関東軍司令官・芳沢駐華公使・吉田奉天総領事らと大連会議を開き、満州權益擁護問題を討議(第2次東方会議)。
10. 3—ラモント米モーガン財閥代表来日し、満鉄外債について協議(12. 3見送り通告)。
10. 14—ソ連、田中駐ソ大使に日ソ不侵略条約を提案。
11. 5—下野した蒋介石入京し、田中首相と会談、国民政府の中国統一への協力を要請。
11. 12—近衛文麿ら貴族院研究会脱退。11. 29大曜会結成。
11. 12—山本条太郎満鉄社長、満蒙5鉄道建設に関し、張作霖の了解を得る。
12. 1—共産党拡大中央委員会、27年テーゼによる党建設を討議。
12. 24—第54通常議会議召集(〜28. 1. 21)。

経済

1. 11—大蔵省、震災手形整理法要綱を最終決定。
2. 9—東西預金協定銀行、利子引下げ実施。
2. 18—北樺太石油会社、ソ連と北樺太石油利権協定に調印。
3. 9—日銀、公定歩合を2厘引き下げ(1銭6厘)。
3. 15—渡辺銀行・あかち貯蓄銀行、当分休業と発表(金融恐慌の始まり)。
3. 21—日銀、市中銀行に非常貸出しを実施。
3. 22—一流銀行を除き東京方面の諸銀行一斉に取付状態(日銀本・支店徹夜で貸出しに応ず)。
3. 26—台湾銀行、鈴木商店に対する新規貸出しを停止。
3. 30—震災手形損失補償公債法、震災手形善後処理法各公布。
3. 30—銀行法公布(銀行条例は廃止。株式会社形態に限定、他業兼営の禁止、最低資本金の規定など)。
4. 5—鈴木商店、取引中止を発表(経営破綻)。
4. 8—第六十五銀行(鈴木系)休業、株式相場大暴落。
4. 18—台湾銀行、台湾を除く全支店を休業。近江銀行も休業(銀行取付全国に広がる)。
4. 18—日銀総裁、財界動揺防止に関する声明。
4. 21—宮内省が大株主の十五銀行休業。全国各地の取付騒ぎその極に達し、金融界大混乱。
4. 22—金銭債務の支払延期および手形の保存行為の期間延長に関する件公布(3週間のモラトリアム)。22、23日の銀行営業中止。
4. 23—大蔵省、正貨現送を停止。
4. 25—全国の銀行、営業再開。
4. 25—日銀の対市中銀行貸出残高、20億円を突破(20億9,500万円)。
5. 8—臨時議会で財界安定3案通過(日銀特別融通法案・台湾特別融通法案・猶予令承諾案)。
5. 9—台湾銀行、各支店の営業再開。
5. 10—井上準之助、日銀総裁就任。
5. 13—モラトリアム解除、各市場は平穏。
5. 27—資源局官制公布(国家総動員のため資源の運用、統制をつかさどる機関として内閣に設置)。
7. 19—閣議、台湾銀行整理案を決定。
8. 6—大蔵省、地方長官に銀行合同促進方を通牒。
10. 10—蔵相、兌換銀行券制限外発行税率を6分から5分に引き下げ。
10. 29—帝国蚕糸(第3次)設立(糸価対策の事務機関)。
10. 29—昭和銀行設立(休業中の諸銀行の業務を引き継ぐ。12. 1開業)。
11. 17—銀行法施行細則公布。
12. 5—日銀・昭和銀行の協議で、休業銀行の大口預金支払いは昭和銀行からの貸付けの形とする(年内支払便法)。
12. 8—村井銀行など3行、一斉に小口の払戻しを開始。
12. 14—左右田銀行、大口払戻し開始(他の各休業銀行、払戻し再開)。
12. 20—小作調査会特別委員会開催(自作農創設に関する小委員会の農地法修正案を可決)。
12. 23—大蔵省、中小商工業者への年末融通等として5円限度の融資案を承認。
12. 30—東京地下鉄道、浅草〜上野間を開業(日本初の地下鉄。料金10銭)。
12. 31—日本銀行帳尻、兌換券発行高16億8,239万円、貸出高8億9,310万7,000円。

国際

1. 3—〔中〕民衆デモ、漢口の英租界に侵入。
1. 6—九江の英租界を奪回。2. 20英と漢口・九江租界回復の協定に調印。
2. 11—〔メキシコ〕カトリック教会財産を国有化、外人牧師の追放開始。
2. 19—〔中〕上海総工会、軍閥反対のゼネスト開始。3. 24上海臨時市政府樹立。
2. 21—〔中〕国民党左派および共産党、武漢国民政府樹立。
3. 24—〔中〕国民革命軍、南京占領。一部の部隊が各国領事館を襲撃、英米軍艦の報復砲撃で死者2,000人(南京事件)。
4. 9—〔米〕最高裁、無政府主義者のサッコとヴァンゼッティに死刑判決。8. 23死刑執行。
4. 12—〔中〕蒋介石、上海で反共クーデタ。
4. 20—〔中〕蒋介石、武漢政府に対抗して南京政府樹立。
5. 18—コミンテルン第8回執行委総会、中国の土地改革と労働者・農民の武装を指示。
5. 20—〔米〕リンドバーグ、スピリット・オブ・セントルイス号で大西洋無着陸横断飛行(33時間29分)。
5. 26—〔英〕対ソ通商条約破棄。議会、対ソ断交を決議。
6. 5—〔中〕武漢政府、ソ連人顧問を罷免。
6. 18—〔中〕張作霖、北京で軍政府を組織し大元帥に就任。
6. 20—ジュネーヴで日米英3国海軍軍縮会議を開催。米、補助艦に5・5・3(日)の比率適用を提案したが失敗。
6. 28—〔英〕ゼネストを禁止。
6. —〔インドネシア〕インドネシア国民党結成(党首スカルノ)。
7. 15—〔中〕武漢政府、共産党を弾圧、国共分裂。
7. 15—〔オーストリア〕社会主義者暗殺のテロリスト釈放に抗議してヴィーンでゼネスト。
8. 1—〔中〕中共軍、南昌占領、革命委員会結成(紅軍誕生)。8. 6南昌放棄。
8. 7—〔中〕中共中央委、書記長陳独秀を罷免、秋の農民武装闘争を決定(秋収蜂起)。
9. 2—〔トルコ〕総選挙で国民党大勝。ケマル・アタチュルク、大統領に就任。
9. 6—〔中〕南京・武漢両政府合体。
10. 17—〔ノルウェー〕初の労働党内閣成立。
10. —〔中〕毛沢東、井岡山に根拠地建設。
11. 17—〔中〕広東省海豊・陸豊に最初のソヴェト政府樹立(海陸豊ソヴェト)。
11. 27—〔伊〕アルバニアを保護国化。
12. 2—〔ソ〕共産党第15回大会。第1次5ヵ年計画承認、トロツキー・ジノヴィエフ除名。
12. 11—〔中〕共産党、広州コミューン樹立。
12. 13—南京国民軍により壊滅。
12. 14—英・イラク、イラクの自治拡大と国際連盟加入を認める新条約に調印。
12. 15—〔中〕南京政府、対ソ断交を宣言。

【注—2ページより】〈週刊誌〉は〈週刊朝日〉通常号、〈米〉の1940年以降は公定または標準価格、〈銭湯〉は東京の料金、〈生ビール〉は東京の5%ジョッキの標準価格を用いた。—〔6ページへつづく〕

[総理大臣] 若槻礼次郎・田中義一

文化

1. 一日本最初のトーキースタジオ、昭和キネマ設立。
1. 一藤森成吉《何が彼女をさうさせたか》。
2. 1一日本国民高等学校開校(茨城県友部、加藤完治校長)。
3. 5一岡倉由三郎《新英和辞典》(研究社)。
3. 5一新潮社《世界文学全集》刊行開始(57巻)。
3. 10一《忠次旅日記・甲州殺陣篇》封切(日活、伊藤大輔監督、大河内伝次郎主演)。
8. 14《信州血笑篇》、12. 27《御用篇》の3部作は時代劇最盛期の記念碑)。
3. 一猪俣津南雄《マルクス主義の前進のために》(野呂・猪俣論争おこる)。
4. 1一《理想》創刊(理想社、哲学雑誌)。
4. 20一保井コノ、日本初の女性博士(理学)となる。
4. 一日本薬理学会設立。
5. 10一日本ポピュラー蓄音器商会創立(輸入原盤による洋楽レコードを製造)。
5. 28一第1回全日本オープンゴルフ選手権大会(程ヶ谷ゴルフ場)。赤星六郎優勝。
6. 9一日本プロレタリア芸術連盟分裂。6. 19青野季吉ら労働芸術家連盟(労芸)結成。
6. 18一日本独文化協会設立。
6. 一我妻栄《近代法に於ける債権の優越的地位》。
6. 一和達清夫、深発地震の存在確認。
6. 一岡部金治郎、マグネトロン発明。
7. 2一日本インターナショナル建築会設立。
7. 10一《岩波文庫》刊行開始(夏目漱石《こゝろ》ほか22点)。
7. 13一文芸家協会など38団体、検閲制度改正期成同盟結成。
7. 24一芥川龍之介服毒自殺。遺書《或旧友へ送る手記》(7. 25《朝日》)。
8. 3一第1回全国都市対抗野球大会(神宮球場)。
8. 一大山郁夫《労働農民党の旗の下に》。
9. 3一古賀春江《煙火》(二科展)。
9. 13一日本ビクター蓄音器設立。
9. 20一緒方知三郎・三田村篤志郎《病理学総論》。
9. 23一日本数学物理学会《日本数学物理学会誌》を創刊し、海外論文を紹介。
9. 28一津田左右吉《道家の思想とその展開》。
9. 一平林たい子《治療室にて》。
9. 一《名曲タイムス》創刊(28年6月《名曲》、31年1月《レコード音楽》と改称)。
10. 15一西田幾多郎《働くものから見るものへ》。
10. 16一鑄木清方《築地明石町》(帝展)。
10. 一芥川龍之介《或阿呆の一生》、《園車》。
10. 一農民文芸会機関誌《農民》創刊。
11. 11一労働芸術家連盟(労芸)分裂。11. 12蔵原惟人・藤森成吉ら、前衛芸術家連盟(前芸)創立(機関誌《前衛》)。
11. 20一河上肇・大山郁夫監修《マルクス主義講座》(13巻、上野書店)。
11. 25一理研コンツェルン発足(理化学研究所、理化学興業など、40年には会社数62)。
11. 28一国民音楽協会主催第1回合唱音楽祭(日本青年館)。
12. 6一《労働》創刊(山川均主幹。堺利彦・荒畑寒村・猪俣津南雄ら参加し、《労働派》形成。山川論文《政治的統一戦線へ》など所収)。

この年一京大花山天文台完成。

社会

1. 16一東京府栗鴨町で150戸焼失。1. 28宮崎県小林町で560戸。3. 27秋田県能代市で178戸。
4. 21金沢市で723戸、福井県田部町で250戸。
4. 27北海道美瑛で151戸。5. 12長野県福島町で600戸、小樽市で453戸、東京府代々幡町で110戸。
5. 29弘前市で372戸。6. 19新潟県見附町で210戸。6. 24秋田県土崎町で257戸。10. 20沖縄県大里村で16戸。12. 29松江市で219戸。
1. 29一富山県下新川郡の日本電力工場現場に大雪崩、74人死亡。
2. 4一農が須永好・浅沼稻次郎ら日労党支持の12人を除名。3. 1除名された各派、全日本農民組合を結成。
3. 6一日本農民組合総同盟結成。
3. 7一北丹後地方に大地震、死者3,589人、全壊3,340戸(北丹後地震)。
3. 9一金華山沖で鹿児島商船水産学校の練習船霧島丸沈没、53人溺死。
3. 27一岡田嘉子と竹内良一と恋の逃避行。
3. 27一福島県磐城炭坑で火災、136人死亡。
4. 28一大阪で高等学校入試問題漏洩が発覚。
4. 29一全国150万人の処女会を大日本連合女子青年団に統一。
5. 1一東京市、知識階級職業紹介所を設置。
5. 17一大審院、夫の貞操義務を明示の判決。
5. 19一大阪市で第1回全国都市問題会議。
5. 30一東洋モスリン亀戸工場の争議妥結、女工初めて外出自由を獲得。
5. 一佐藤紅緑《ああ玉杯に花うけて》が《少年倶楽部》に連載開始。
6. 14一鳥取県箕輪地方小作争議、大高村で警官隊と衝突、12人検挙。同月、兵庫県神戸村でも100人検挙。
7. 27一川崎造船所、警官厳戒下で3,037人の解雇発表。
8. 13一甲子園の第13回全国中等野球大会を大阪中央放送局が初の実況中継(スポーツ実況の開始)。
8. 24一駆逐艦蘇我巡洋艦神通と島根県美保関沖で濃霧のため衝突沈没、119人死亡。
9. 13一九州沿岸に大津波、熊本県死者364人、長崎県で21人。
9. 16一野田醬油の総同盟組合員1,500人がスト。暴力団介入。28. 4. 20解決(戦前の最長スト)。
10. 2一全国婦人同盟結成。
10. 一富山県で電灯料値下げ運動起こる。30年にかけて全国に波及。
11. 3一初の明治節、明治神宮参拝者80万人。
11. 10一岐阜県鶴村で農民6,000人が小作争議。
11. 24山添村、11. 25一色村でも。
11. 19一全国水平社員北原泰作2等兵が名古屋での陸軍大演習の観兵式で、軍隊内の差別を天皇に直訴。

この年一産児制限・不況のため出生人口大幅に減少(前年比4万5,041人)、チャールストン、白くろみの赤ちゃん服、ハクリ品の広告(フォード・シボレー・イーストマン・ツェイス・リビイ・M. J. Bなど)。

この年一流行語:《イット》《円本》《シャン》《何が彼女をさうさせたか》《マルクスボーイ》《大衆》。

この年一流行歌:《茶切り節》《佐渡おけさ》《波浮の港》《どん底の歌》。

この年一映画:《忠次旅日記》《彼をめぐる五人の女》《尊王攘夷》《海の勇者》《からくり娘》《第七天国》《ヴァリエテ》《ビッグ・パレード》。

世相

【御大喪でボル飲食店】大正天皇の多摩御陵参拝者は2月25日までに135万人に達し、浅川駅から続く御陵参道の飲食店は、御大喪前の30軒ほどから100軒にふえ、値段も時価の2倍以上。うどん20銭、おでん1皿30銭、天どん60銭、親子どん70銭、酒(月桂冠1合)70銭、のり巻(8個)40銭など。岩崎彌太郎《物価の世相100年》ではこのように商魂のたくましさを伝えている。

【日本児童文庫】対《小学生全集》 3月27日の朝刊の同じ紙面の上半分に《小学生全集》、下半分に《日本児童文庫》の出版予告が掲載される。興文社とアルスの、菊池寛と北原白秋の中傷合戦の端緒となった。

【モンバリー】 9月1日から宝塚歌劇団が初めて上演した本格的なレビュー。洋行帰りの岸田辰弥作・演出で宝塚大劇場で開演した。幕なし16場、大がかりな舞台装置、ライダダンスがファンを目をひいた。続演2ヵ月のロングラン。特に《エジプトの踊り》は大胆に腕や足を出したので、《裸で踊っている》というわきもでた。

【最初のファッション・ショー】 9月21日、日本橋の三越呉服店が日本で初のファッション・ショーを開催した。まだモデルという職業はなかったで、女優の水谷八重子、東日出子、小林延子らがモダンな洋装で出演した。

【地下鉄開通】 12月30日、東京・上野～浅草間に初の地下鉄が開通。全線10銭均一。改札所にターンスタイル(自動出札機)を取り付け、10銭白銅貨を入れると回転ドアが回って1人分だけ通れる。

【初の家計調査】 内閣統計部は、26年9月から27年8月までの1年間にわたり全国主要都市について初の家計調査を実施。月収60円以上200円以下の給料生活者と労働者を標準とし、官吏、会社員、商店の番頭、工場労働者、日雇労働者ら393世帯(給料生活者129、労働者264)が対象。1世帯1ヵ月の平均収入は130円95銭。借家住いは全世帯の83.71%、家賃は給料取りが平均21円93銭、労働者は同16円98銭。支出面で見ると平均して飲食費3割、住居費2割、被服費1割、社会費4割(交際費2割5分、文化費1割5分)となっている。また世帯主の収入だけという世帯はゼロ。

【日本一の地代】 大蔵省が調査した土地賃貸価格によると、全国一は次の3ヵ所。1坪100円。①東京駅前丸ビル敷地、②三越呉服店(日本橋)、③大阪市北浜ビル敷地。銀座のカフェ・ライオン付近は1級下がって95円。

【円本ブーム】 改造社の《現代日本文学全集》(全63巻)がトップ。3段組み約500ページで1円というのは破格の値段で、最初の1ヵ月で23万部もの予約が殺到。これがきっかけとなって各出版社が続々と円本をつくり出した。新潮社《世界文学全集》(全57巻)、春陽堂《明治大正文学全集》(全50巻)、平凡社《現代大衆文学全集》(全60巻)など。



●金融恐慌、東京貯蓄銀行に押しかける預金者(4月21日)。

1928 昭和3年

政治

1. 21—政府、民政党内閣不信任案上程動議可決を無視、衆議院解散。
2. 1—共産党機関紙《赤旗》創刊。
2. 17—香川県で、三土忠造と激戦中の大山郁夫(労農候補)の選挙運動に大弾圧。検束・召喚500余人。
2. 19—鈴木喜三郎内相、民政党的な議院中心主義は国体にもとると声明。
2. 20—第16回衆議院議員総選挙(最初の普通選挙。政友217・民政216・実業同志会4・革新3・無産諸派8)。
2. —共産党、山川均・荒畑寒村を除名、労農派排除を決定。
3. 15—共産党員、全国で大検挙(3・15事件。検挙約1,400人、起訴488人)。
4. 10—労農党・評議会・無産青年同盟に解散命令。
4. 15—上海で日本共産党台湾民族支部設立。
4. 17—鶴見祐輔ら衆議院に明政会結成。
4. 19—政府、山東出兵を決定(第2次山東出兵)。
4. 20—第55特別議会召集。
4. 28—衆議院、鈴木内相弾劾決議案上程。議院停会。5. 3鈴木内相、辞表提出。
4. 29—無産各党、東京・本所公会堂で内閣打倒民衆大会開催。
5. 3—日本軍、国民政府軍と山東省済南で衝突(済南事件)。5. 11済南城占領。
5. 18—政府、中国南北政府に対し、満州に戦乱波及の場合、自衛処置を取ると通告。張作霖に満州への引揚げを勧告。
5. 19—米国務長官、日本の対華通告に抗議。
5. 22—水野錬太郎文相、久原房之助の入閣に反対して辞表。5. 23天皇の優詔により翻意(優詔問題起こる)。5. 25辞任。
6. 4—奉天に引揚げ途上の張作霖、関東軍河本大作参謀の謀略で列車を爆破され死亡(張作霖爆殺事件)。
6. 21—民政党、政府の山東出兵非難の声明。
6. 29—衆議院で審議未了の治安維持法改正緊急勅令公布(国体変革に関する犯罪に死刑・無期懲役を追加)。
7. 3—内務省に保安課新設、道府県に特高課設置。
7. 4—憲兵隊に思想係設置。
7. 19—国民政府、日華通商条約廃棄を通告。
7. 22—無産大衆党結成(書記長鈴木茂三郎)。
8. 1—床次竹二郎民政党顧問、脱党。8. 9新党俱樂部結成。
8. 11—東京市魚河岸に出店できる板舟橋にからむ疑獄事件、8. 16京成電車乗入れにからむ疑獄事件、など東京市会の疑獄続発。
8. 27—パリで不戦条約調印。同条約本文第1条の〈人民の名において〉が政治問題化。
10. 1—陪審法施行。
10. 6—渡辺政之輔共産党書記長、台湾基隆で官憲に追いつめられ自殺。
11. 10—天皇、京都御所で即位礼。
12. 20—日本大衆党結成(日労・日農・無産大衆など無産党中間派の結集。委員長高野岩三郎)。
12. 21—東京市会議員、疑獄事件で多数拘留のため、内務省、市会解散を命令。
12. 22—新労働農民党結成大会。12. 24結社禁止。
12. 28—政治的自由獲得労農同盟準備会創立宣言(合法政党結成をきざめる)。
12. 24—第56通常議会召集(〜29. 3. 25)。

経済

1. 23—日ソ漁業条約調印。
1. 30—大蔵省預金部資金運用委員会、救済融資を決定(中小商工業者応急資金5,000万円、小農救済資金3,000万円)。
2. 1—通信省、月掛郵便貯蓄金制度実施。
2. 8—日商設立(鈴木商店・日本商業の業務を引き継ぐ)。
2. 9—日本電力、外債900万ドルをニューヨークで売出し開始。
2. 23—大蔵省、各地方の銀行に対して実地検査を開始。
3. 2—政府、外米輸入制限を承認。
4. 1—東京電燈、東京電力の業務引継ぎ完了。
4. 10—日本商工会議所設立(商工会議所法に基づく最初の全国連合組織)。
5. 1—山東出兵のため近海運賃暴騰。
5. 8—日銀特別融資打切り(特別融通法による6億8,793万円、台湾金融機関融通法による1億9,150万円)。
5. 9—政府、山東出兵費300万円を予備金および剰余金より支出に決定。
6. 12—井上準之助、日銀総裁を辞任。
6. 15—東京電燈、外債社債発行(米貨債7,000万ドル、英貨債450万ポンド)。
6. 22—大阪朝日・大阪毎日両新聞社、金解禁促進大懇談会を開催。
6. 29—政府、経済審議会の設置を決定。
6. 30—大蔵省、銀行の上曜半休認可を決定(7. 10より実施)。
7. 9—商工省、重要輸出品取締規則公布。
7. 19—国民政府外交部長、日華通商条約廃棄に関する公文書を日本領事に手交。
7. 20—政府、日華通商条約廃棄はあくまで拒絶と決定。
8. 8—外務省、日華通商条約廃棄対日通告および対華回答文を公表。
8. 8—通信省、富山県電灯料値下げ争議に関し会社側に1割3分の値下げ命令を決定。
9. 5—日ソ樺太石油利権契約調印。
9. —日本電力、尾崎発電所完成(このころ水力発電を補完する大火力発電所の建設あい次ぐ)。
10. 4—農林省、米不作予想を裏切って豊作と発表したため東京米穀商品取引所混乱、相場暴落、立会停止となる。
10. 5—東京商工会議所役員会、金解禁即行を決議。
10. 22—東京・大阪両手形交換所総会、金解禁断行を決議。
10. 22—昭和肥料設立(昭和電工の前身の一つ)。
10. 25—日本商工会議所、金解禁断行についての建議を決議。
10. 26—金解禁即行論の活発化により、株式相場暴落。
11. 5—NHK、仙台〜熊本間放送専用中継線完成、全国中継放送を初めて行う。
11. 6—鉄道省官制改正公布(陸運の監督権を通信省から鉄道省に移す)。
11. 28—高柳健次郎、ブラウン管受像方式によるテレビジョンの公開実験。
12. 21—経済審議会、金解禁断行の答申案可決。
12. 29—久原鉱業、日本産業と改称(持株会社として日産コンツェルンの中核となる。社長鮎川義介)。
12. 29—大日本製糖など製糖6社、砂糖供給組合結成(国内販売カルテルの形成)。

国際

1. —ハバナで第6回汎米会議開催。米、内政不干渉決議に反対。
1. 9—〔中〕蒋介石、国民革命軍総司令に復職。
2. 2—〔中〕南京で国民党第2次4中全会開催。北伐再開を決定。
2. 20—〔英〕条件付きでトランス・ヨルダンの独立を承認。
2. 21—〔伊〕ファシスト義勇団を正規軍に編入。
2. —〔インド〕サイモン委員会到着で反英運動活発化。4〜10月ボンベイ紡績工場、鉄道など抗議スト。
4. 9—〔トルコ〕イスラム教を国教とする憲法条項を廃止。
4. 13—ケロッグ米国務長官、ロカルノ条約加盟諸国に戦争否定の宣言を提示。
4. 27—〔ポルトガル〕経済学者サラザール、蔵相就任(財政建直しを断行)。
4. —〔中〕北伐を再開。朱徳・陳毅らの紅軍、井冈山の毛沢東に合流(紅軍第4軍編成)。
5. 10—〔イラン〕不平等条約の破棄を宣言、英、治外法権撤廃・新関税率を承認。
5. 12—〔伊〕新選挙法公布。各種団体から提出された、ファシスト大評議会作成の候補者名簿(400人)による投票制とする。
5. 20—〔独〕総選挙で社会民主党・共産党が進出。
5. 30—〔中〕張作霖、北京総退却を命令。6. 4爆死。
5. 30—伊・トルコ不可侵条約調印。
6. 8—〔中〕北伐軍、北京入城(北伐完了)。
6. 20—〔ユーゴ〕議会でクロアチア系議員ラデーチ、セルビア系議員に襲撃される。
6. 24—〔仏〕金本位制に復帰。
7. 2—〔中〕張学良、東三省保安総司令に就任。北伐軍と講和。
7. 2—〔英〕平等選挙法成立(21歳以上の男女に選挙権)。
7. 7—〔中〕国民政府、治外法権と不平等条約廃棄を宣言。7. 25、関税自主権を承認した新条約に調印。各国、年内に同様の条約に調印。
7. 17—第6回コミンテルン大会、綱領決定。
8. 2—伊・エチオピア友好条約調印。
8. 27—パリでケロッグ=ブリアン不戦条約調印。米英仏日など15ヵ国が署名。
9. 1—〔アルバニア〕ゾグ大統領、国王になると宣言。
10. 8—〔中〕蒋介石、国民政府主席に就任。
11. 3—米、中華民国政府を正式承認。12. 20英、12. 22仏つづいて承認。
11. 7—〔米〕大統領選挙で共和党のフーヴァー当選。
11. 15—〔伊〕ファシスト大評議会、正式の国家機関となる。
12. 29—〔中〕張学良、国民政府に合流、東三省に青天白日旗翻る。

【総理大臣】 田中義一

文化

1. 一猪俣津南雄《何から始むべきか》。
2. 5—《岩波講座世界思潮》(12巻。三木清・羽仁五郎・林達夫編集)。第3巻(5. 15)に狩野亨吉《安藤昌益》。
2. 10—日本評論社《現代法学全集》(39巻)。
2. 11—第2回冬季オリンピックに日本スキー選手が初参加(サン・モリッツ)。
2. 一窪川いね子(佐多稲子)《キャラメル工場から》。
2. 一舟橋聖一・阿部知二ら《文芸都市》創刊。
3. 14—イブセン生誕100年祭で築地小劇場が《ノラ》上演(帝劇)。
3. 25—プロ芸と前芸が合体し、全日本無産者芸術連盟(ナッパ)結成。5月《戦旗》創刊。12. 25全日本無産者芸術団体協議会(ナッパ)に再組織。30年9月《ナッパ》創刊。
3. 23—大阪商科大学設立認可(初の市立大学)。
3. 一服部之總《明治維新史》。
4. 3—天理研究会員385人が不敬事件で検挙。
4. 21—東京左翼劇場第1回公演(ナッパ所属、村山知義《進水式》上演、築地)。
4. 一東京・京都・九州・東北各帝大の社研解散命令。京大教授河上肇辞職、東大森義太郎、九大石浜知行ら追放。
5. 5—勅使河原蒼風、第1回草月流生花展。
5. 15—帝国教育会思想問題調査委員会設置。
5. 20—三木清《唯物史観と現代の意識》。
5. 21—野口英世、西アフリカで黄熱病の研究中に罹病して客死。
5. 26—第1回全日本学生陸上競技大会(明治神宮競技場)。早大優勝。
5. 一蔵原惟人《プロレタリア・レアリズムへの道》。
6. 5—改造社《マルクス・エンゲルス全集》(27巻・別巻・補巻)。
6. 一菊地正士、電子の回折現象(菊地線)を発見。
7. 20—山本有三《波》(《朝日》)。
7. 26—坪内逍遙訳《沙翁全集》完成記念で《真夏の夜の夢》上演。
7. 28—第9回アムステルダム・オリンピック開催(8. 2三段とびで織田幹雄、200m平泳で鶴田義行が初の金メダル獲得。女子は人見絹枝が800m競走で唯一の銀メダル)。
8. 一野上弥生子《真知子》。林芙美子《放浪記》。
9. 1—曾我廼家十吾・2世渋谷天外らの松竹家庭劇、角座で第1回公演。
9. 3—改造社《経済学全集》(67巻)。
9. 一日本評論社《現代経済学全集》(31巻)。
9. 一春山行夫ら《詩と詩論》創刊(のちに《文学》と改題)。
10. 1—三木清・羽仁五郎ら《新興科学の旗の下に》創刊。
10. 1—マキノ正博監督《浪人街・第1話》(山上伊太郎脚本、三木稔撮影)。
10. 12—東京松竹楽劇部設立。水の江麗子ら入部(32年松竹少女歌劇部)。
10. 27—早稲田大学演劇博物館(坪内博士記念館)開館。
10. 30—文部省、思想対策のため学生課を設置。
11. 27—第1回プロレタリア大美術展(府美)。
- この年—算術教科書にメートル法採用。
- この年—橋本国彦作曲《微》、《斑猫》(最初の近代主義的スタイルの歌曲)。

社会

1. 11—暴風雪、北海道襲う。漁船転覆などで死者・行方不明113人。2. 8やはり北海道で16人。
1. 12—大相撲のラジオ放送開始。
2. 13—新潟県に豪雪、死者62人。
2. 28—太平洋横断の練習機が佐賀県七浦村で爆発し、飛行家後藤勇吉が死亡。
3. 13—東京・神田の巖松堂少年店員42人、丁稚奉公制に反対し争議、岩波書店でも店員70人が待遇改善の争議。
3. 15—東京・上野でシェパード展(シェパード飼育が流行)。
3. 21—東京府和田堀で大火、300戸焼失。4. 18弘前市で650戸。4. 19長崎県北松浦郡生月村で400戸。5. 10秋田県西馬音内町で500戸。8. 3新潟県五泉町で560戸。8. 23北海道天塩町で600戸。10. 18佐渡・両津町で800戸。
3. 24—高島屋に初のマネキンガール。
3. 30—宮城県前谷地村で地主による小作地取り上げに日農の450人、共同耕作で対抗。
5. 2—ネコイラズ自殺が流行、この日5人の自殺者。
5. 4—初の国産旅客機墜落、8人死亡。
5. 12—全日本農民組合と日本農民組合が合同、全国農民組合結成。
5. 19—婦人消費組合協会結成。
5. 20—東京～大阪間の中継放送開始。
6. 5—札幌放送局開設。6. 15仙台放送局。6. 16熊本放送局。7. 6広島放送局。
6. 29—東京モスリン金町工場で1, 200人がスト。
6. 30—大阪で防空演習。
8. 19—中上川あき、在イタリアの藤原義江のもとへはしる。
8. 27—東京～大阪間の空の旅客便始まる。
8. 27—東京日日新聞、電送写真に成功。
8. 一芝浦製作所鶴見工場の1, 200人、大阪メリヤスの2, 000人がそれぞれスト。
9. 12—《ピス平》こと中村一平を逮捕。《ピス平》は9. 10東京・戸塚で警官を射殺。9. 12には警官ら2人を狙撃。
9. 15—全国借家人組合総連盟創立。
9. 20—大正記念京都博覧会開かれる。
9. 20—東京と大阪で40人の大窃盗団を逮捕。2, 000余件、総額30万円の盗み。
9. 一日本鋼管、2, 000人が争議。
10. 12—平安神宮に日本最大の大鳥居。
11. 1—ラジオ体操スタート。
11. 5—朝日新聞社の東京・大阪各社屋に電光ニュース登場。
11. 10—警視庁、ダンスホールの18歳未満の入場を禁止。
11. 25—京都・東本願寺前で朝鮮人が天皇に直訴、逮捕。12. 26農民が天皇に直訴、逮捕。この年、東京だけで6件の直訴。
12. 6—埼玉県会、公娼廃止を可決。
12. 16—東京瓦斯争議始まる。
- この年—フラッパー時代、ダンスホール全盛、美人女給のカフェ、直訴続出で奉書紙購入の際、住所氏名の明示が必要になる、流行歌の電気吹き込みレコード。
- この年—流行語: 〈人民の名において〉〈怪文書〉〈昭和維新〉〈マネキンガール〉〈モンパリー〉〈ラジオ体操〉〈ラッパズボン〉。
- この年—流行歌: 〈出船〉〈出船の港〉〈君恋し〉〈モンパリー〉〈私の青春〉〈アラビヤの唄〉
- この年—映画: 〈浪人街〉〈新版大岡政談〉〈陸の王者〉〈彼と東京〉〈道頓堀行進曲〉〈サンライズ〉〈暗黒街〉〈サーカス〉。

世相

【〈坊主のうんこ〉大不敬事件】 〈キング〉新年号で菅原道真の詩〈恩賜の御衣今なおここにあり、捧げ持ちて毎日余香を拝す〉をもじって、〈坊主のうんこ今なおここにあり、捧げ持ちて毎日余香を拝す〉という理め草にしたところ、〈恩賜の御衣〉を〈坊主のうんこ〉とは大不敬だということになった。毎日、暴力団が5, 6人で訪れ、なかには編集部にも暴れ込むものもいた。巡査は来ても見ているだけ。明治節制定の直後でもあって騒ぎは大きくなり、講談社はかなり金をとられた。

【最低賃金制第1号】 最低賃金制の確立を目指し船主協会と争議を続けてきた日本海員組合は、6月8日、海事協会の仲裁案を受け入れて交渉妥結し日本で初の産業別最低賃金制を獲得した。日本の船員のこれまでの平均給料は月38円で、各国の船員の平均95円と大きな格差があったが、今回の協定で平均50円程度になった。

【中上川あきが藤原義江のもとにはしる】 三井財閥の番頭中上川彦次郎の長女・あき(1897年生)は、女子学習院を卒業すると16歳で大阪大学教授の宮下左右輔と結婚。ところが人気テナーの藤原義江に夢中になり、公演について歩いてたまりした。連れ戻されるがまた飛び出し、結局宮下と離婚となり、中上川家からも追い出され、学習院同窓会からも除名となった。それにも負けず、28年8月にイタリアの義江のもとにかけつけ一緒に、〈世紀の恋〉と騒がれた。藤原あきは53年には義江と離婚したが、NHKテレビ〈私の秘密〉でスターとなり、62年の参院選でトップ当選、タレント議員第1号といわれた。

【ラジオ体操始まる】 NHKのラジオ体操の第1声が放たれたのは11月1日午前7時東京愛宕山第1スタジオからだった。アナウンサーは江木理一。この年の11月10日天皇の即位の祝典が行われるのを機に、国民的事業をおこそうという機運を背景に、国民の健康増進、体育の大衆化を目的として逓信省簡易保険局、生命保険会社協会、NHKの協賛、文部省の後援でスタートした。当初は東京ローカル放送だったが、翌29年には全国放送となった。続いて30年に東京・神田の一警察官が子どもの早起き会をつくり、広場で体操を始めたのが発端となり、31年夏に〈ラジオ体操の会〉ができた。31年夏は、会場数305、参加延べ人員350万人だが、35年夏には7, 592の会場数、延べ人員7, 300万人。しかし、戦時色濃厚になるにつれて多くの会場で国旗掲揚式、宮城遙拝、国歌斉唱が行われた。そして45年10月にGHQの命令で号令が禁止され、47年秋に中止。51年春に復活し現在へ至る。

【職業婦人の賃金】 平均月収は30円前後。紡績女工(愛媛)の平均日当1円8銭、ガソリンガール日給1円+歩合(1日100ガロン売ると20銭)、ダンサー(東京)チケット1枚(レコード1枚かけている間)20銭のうち9銭が取り分で半月に35円(岩崎爾郎《物価の世相100年》)。女性の社会的進出が増えているとはいえ、高給をとれるのは、ダンサーやカフェの女給だった。



●海辺を彩るモダン水着。

【1928年の値段】 大卒初任給=70円 東大の受験料=10円 東京・本郷の下宿1ヵ月=25~30円 ガソリン1リ=14銭 週刊誌=12銭 米1升=35銭 銭湯大人=5銭 生ビール・ジョッキ=23銭。

1929 昭和4年

政治

1. 17—政治的自由獲得同盟分裂。水谷長三郎ら労働大衆党結成。大山郁夫派は裏切りと非難。
1. 25—中野正剛(民政党代議士)、衆議院予算総会で満州某重大事件(張作霖爆殺事件)について田中首相を追及。
3. 5—衆議院、緊急勅令による治安維持法改正(28.6.29)を事後承諾、3.19貴族院も承諾。
3. 5—山本宣治代議士(旧労働党)、東京・神田で右翼七生義団員黒田保久二に刺殺される。4.30犯人黒田保釈出所し問題化。
3. 9—政友会・新党倶楽部の小選挙区制案上程で民政党・無産党の反対強く衆議院混乱。3.22衆議院通過、貴族院で審議未了。
3. 28—済南事件解決に関する日中文書調印。
4. 5—陪審法改正公布(治安維持法事件は陪審制を適用しない)。
4. 16—共産党員、全国で大検挙。339人起訴(4.16事件)。市川正一・鍋山貞親ら党幹部もつづいて検挙。
5. 2—南京・漢口両事件(1927)の解決文書調印。
6. 3—日本、中国国民政府を正式に承認。
6. 10—拓務省官制公布(植民政策の統轄)。
6. 26—枢密院、不戦条約可決(ただし「人民の名において」を留保)。内田康哉枢密顧問官、調印の責任をとって辞任。
7. 1—政府、張作霖爆殺事件責任者処分を発表。主謀者河本大作大佐停職。天皇、河本処分を不十分とし、田中首相を叱責。
7. 2—田中内閣総辞職。
7. 2—浜口雄幸内閣(民政党)成立、外相に幣原起用(第2次幣原外交)。
7. 9—浜口首相、10大政綱発表(対華親善・軍縮促進・財政緊縮・金解禁など)。
7. 29—政府、5%削減の緊縮実行予算発表。
8. 8—大山郁夫ら合法左翼政党結成を提案。
8. 28—浜口首相、放送で緊縮政策を国民に訴える。
8. 下—北海道鉄道買収、東大阪電軌認可にからむ汚職事件起こる。また御大典記念章製作で売懸疑獄事件起こる。
9. 26—私鉄疑獄事件で小川平吉前鉄相、起訴。
9. 30—共産党、浅野見・門屋博らを解党派として除名。
10. 12—政友会臨時大会。田中義一(9.29没)の後任として犬養毅総裁を決定。
10. 15—政府、官吏1割減俸を発表。反対運動で10.22撤回。
10. 16—政府、ロンドン軍縮会議への招集に応ずると回答。30.1.21出席。
11. 1—新労働党結成(委員長大山郁夫)。
11. 17—朝鮮疑獄事件で山梨半造前朝鮮総督召喚。12.28起訴。
11. 26—財部彪海相、ロンドン軍縮会議全権として出発。政府、全権代表に対し対米7割を訓令。
11. 26—日本国民党結成。
11. 29—越後鉄道汚職事件で小橋一太文相、辞任。
12. 10—社会民衆党分裂、30.1.15脱退派が全国民衆党を結成。
12. 23—第57通常議会召集(～30.1.21)。
12. 25—東京無産党結成(日本大衆党を除名された堺利彦らの結集)。

経済

1. 17—臨時電気事業調査会官制公布(電気事業の統制に関する調査・審議のため)。
1. 21—農林省、28年米実収高6,030万石と発表。
3. 28—糸仙安定融資補償法公布(銀行の糸仙担保貸付けの損失を政府が補償)。
3. —対米為替44ドル台に。このころ金解禁をめぐって慎重論、新平価解禁論など盛行。
4. 13—日本無線電信会社、日欧間の無線通信を4.15より開始と決定。
4. 20—金解禁近しのうわさで東京株式市場は売物殺到。
4. 24—日本鉱業設立(日本産業の鉱業部門を継承)。
4. —日本航空輸送、東京～大阪～福岡間の定期旅客輸送を始める(7月には京城・大連まで延長)。
5. 16—日本商工会議所常議員会、金輸出解禁方針明要求の建議書を政府に提出。
5. 30—三上蔵相、日本経済連盟会代表に対して財界不安定のため金解禁を即行せよと言明。
6. 7—経済審議会、国債整理小委員会案決定。
7. 2—蔵相に井上準之助就任(緊縮財政・金解禁など、いわゆる井上財政の始まり)。
7. 4—昭和製鋼所設立(本社京城。満鉄がほぼ全額出資。政府不認可のため一時中止、33年に満鉄鞍山製鉄所を合併して開業)。
7. 19—社会政策審議会、関税審議会、国際貸借審議会各官制公布。
7. 19—大蔵省、国際決済銀行への参加段取りを内定。
7. 27—大蔵省、29年度予算のうち2,800万円余の節減、6,200万円余の繰延べを決定。
7. —新内閣による金解禁即行方針のため株式相場暴落。
9. 13—政府、金解禁時期につき蔵相に一任。
10. 1—小西六、最初の国産写真フィルム(さくらフィルム)を発表。
10. 7—6大都市府県連合で失業救済事業協和会開催。
10. 10—民政党政務調査会、金解禁即行決議発表を決定。
10. 16—司法官をはじめ減俸反対論台頭。
10. 16—大蔵省、明年度経費節約案(節約1億円余、繰延べ4,000万円余)を各省に内示。
10. —アメリカ株式市場大暴落で糸仙価格崩落。
11. 19—糸仙業同業組合中央総会、糸仙安定融資補償法発動の要請などを決議。
11. 19—横浜正金銀行、米英金融団と1億円のクレジット設定(金解禁の準備)。
11. 21—大蔵省、金解禁に関する省令公布。
11. 21—内閣に産業合理化審議会を設置。
11. 21—東京・大阪・名古屋のシンジケート銀行団、金本位制維持への支援合意を発表。
11. 27—播磨造船所設立(神戸製鋼所より独立。のちの石川島播磨重工業の前身の一つ)。
12. 10—商工省、産業合理化局設置を決定。
12. 13—商工審議会、産業合理化に関する答申を決定。
12. 15—全国の製糸業者、2週間の一斉休業。
12. 23—日本銀行特種残高、当日現在で5億9,940万円。

国際

1. 5—〔ユーゴ〕アレクサンダル国王、独裁を宣言(憲法停止・議会解散)。
1. 14—〔アフガニスタン〕保守派の反乱でアマヌッラー国王退位、伊へ亡命。
1. 29—〔スペイン〕反ブリモ・デ・リベラ暴動発生。
1. —〔中〕毛沢東・朱徳ら紅軍、国民軍に攻撃されて井冈山を放棄、江西・福建に進出、ソヴェト区樹立。
2. 9—モスクワで不戦条約即時実施に関するクリトヴィノフ議定書調印(ソ連・ポーランド・ルーマニア・エストニア・ラトヴィア)。
2. 11—〔伊〕ムソリーニ、ローマ教皇とラテラノ条約調印。補償金40億リラで教皇主権のヴェチカン市国承認。
2. —〔中〕広西軍閥、反蒋運動を起こし湖南に進軍。3.26蒋介石、広西派討伐を命令。
3. 4—〔米〕第31代大統領フーヴァー就任。
3. 28—〔中〕国民党3全大会開催。左派排除、蒋介石の指導権確立。
4. 21—〔伊〕労・資・国家の3者代表からなる協調組合会議設置。
5. 30—〔英〕総選挙で労働党第1党。6.5第2次マクドナルド内閣成立。
6. 3—日・独・伊、中国国民政府を正式承認。
6. 3—チリ・ペルー、タクナ・アリカ国境紛争についての協定調印。
6. 7—ドイツ賠償についてのヤング案発表。
7. 11—〔中〕張学良軍、東支鉄道を強行回収。
7. 27—〔仏〕ボワンカレ内閣退陣。以後短命内閣つづく。
8. 1—〔中〕蒋介石、第2回国軍編遣会議招集。地方軍縮小案可決(各地に反蒋運動起こる)。
8. 6—ヤング案に関する第1回会議開催。独、同案受諾。9月連合国、ラインラント撤兵開始。
8. —イェルサレムでアラブ人による大規模なユダヤ人襲撃事件起こる(嘆きの壁事件)。
10. 1—〔英〕対ソ国交を回復。
10. 3—〔ユーゴ〕ユーゴ(セルブ・クロアート・スロヴェーン)王国、ユーゴスラヴィアと正式に改称。
10. 8—〔アフガニスタン〕ナーディル・シャー、カーブル占領。10.16王位につく。
10. 12—〔豪〕総選挙で労働党勝利。
10. 24—〔米〕農作物の過剰生産から投物殺到、ニューヨーク株式市場が大暴落(「暗黒の木曜日」、世界恐慌の始まり)。10.29にも暴落。
10. 31—〔インド〕インド政府、自治に関する英印ラウンド会議開催を決定。
11. 3—〔朝鮮〕全羅南道光州の学生、植民地差別教育に抗議デモ。全上に波及。
11. 10—〔ソ〕共産党中央委総会開催。ブハーリン、ルイコフを追放。
12. 21—〔エジプト〕総選挙でワフド党再び大勝利。
12. 22—〔独〕人民投票でヤング案支持。
12. 22—〔中〕張学良、ソ連とハバロフスク協定調印。ソ連の東支鉄道管理権承認。
12. 31—〔インド〕国民会議派、ラホール年次大会で完全独立(プルナ・スワラジ)を決議。

【総理大臣】 田中義一→浜口雄幸

文化

1. 22—ナッパ成立に伴い、日本プロレタリア美術家同盟(AR)結成。以後2. 2同映画同盟(プロキノ)、2. 10同作家同盟(ナルブ)など結成つく。
2. 3—改造社《改造文庫》刊行開始(《中江兆民集》、ルソー《エミール》など)。
2. 23—春陽堂《日本戯曲全集》刊行開始。
3. 25—土方与志退団が導火線となり、築地小劇場分裂(丸山定夫、山本安英ら脱退。残留組は劇団築地小劇場と改称。4. 5土方与志・丸山定夫ら新築地劇団を結成)。
3. 28—国宝保存法公布。
3. —平林初之輔《政治的価値と芸術的価値》(10月、中野重治《芸術に政治的価値なんてものはない》を著し、論争に発展)。
4. 8—小原国芳、玉川学園創立。
4. 17—斎藤茂吉《短歌生生の説》。
4. 19—内田吐夢監督《生ける人形》(日活、小杉勇・入江たか子主演。プロレタリア・イデオロギーによる傾向映画の代表作)。
4. —折口信夫《古代研究》民俗学篇1、国文学篇。
4. —一島崎藤村《夜明け前》第1部。
4. —小津安二郎監督《大学は出たけれど》(当時の不景気を反映した小市民映画)。
5. 9—米国の本格的トーキー《進軍》、新宿・武蔵野館で封切。以後トーキー普及につれて弁士・楽士の失業続出、争議おこる(7月)。
5. —小林多喜二《蟹工船》(《戦旗》。9月刊の単行本が発禁。30年2月改訂版も発禁。29年7月帝劇で新築地劇団が《北緯50度以北》として初演)。
6. 10—平坂潤《科学方法論》。
6. —国吉康雄《横たわる女》。
6. —徳永直《太陽のない街》。
6. —秋田県で成田忠久ら北方教育社を結成、東北の生活綴方運動はじまる。30年2月《北方教育》創刊。
6. —川端竜子、青竜社創立(会場芸術主義を主張)。
7. 1—文部省に社会教育局設置。
7. 10—東京・浅草水族館にカジノ・フォーリー発足。すぐ行き詰まるが榎本健一入団で10. 28第2次発足。
7. —折口信夫・金田一京助ら民俗学会設立(《民俗学》創刊)。
8. —藤井健次郎《Cytologia》創刊(国際的な細胞学雑誌)。
9. 1—三省堂《コンサイス英和辞典》。
9. 3—速水御舟《名樹散椿》(院展)。
9. —小林秀雄《様々な意匠》。
10. 13—プロレタリア科学研究所創立(11. 4《プロレタリア科学》創刊)。
10. 16—平福百穂《堅田の一夜》(帝展)。
10. —河上肇《何故新労働党を支持するか》。
10. —小砂丘忠義《綴方生活》創刊。
10. —横光利一ら、《文学》創刊。
11. 2—《幸徳秋水思想論集》発禁(この頃、左翼関係の書籍・雑誌の発禁が増加)。
11. 15—西脇順三郎《超現実主義詩論》。
11. 23—大日本スケート競技連盟結成。
11. —東京工芸協会結成。以後各地に工芸協会が誕生。
12. 1—末弘敏太郎編集《法律時報》創刊。
12. 21—川尻東次ら、人形クラブ結成(のちの人形劇団ブーク)。

社会

1. 7—岐阜県名森村で犀川切り落し反対の町村民1,500人が県庁へ押しかける。1. 9 3,500人暴徒化、軍隊出動。1. 11工事中止。
 1. 14—朝鮮元山の石油・運輸労働者1,500人がスト。4. 16解決。
 1. 20—日本初の海の刑務所武蔵、浦賀沖で開所式を挙行。
 1. 30—東京・上野の松坂屋焼失。
 2. 15—東京・牛込の戸山脳病院が全焼し患者11人焼死。
 2. 23—《説教強盗》の妻木松吉を逮捕。
 2. 21—東京で初の麻雀全国大会、参加350人。
 4. 1—初の国産ウイスキー、サントリー白札発売。4円50銭。
 4. 15—初のターミナル・デパート阪急百貨店が大阪に開店。
 4. 27—京都で初のロータリー・クラブ大会。
 5. 1—東京市の正午の午砲(3. 31廃止)がサイレンに変わる。
 5. 3—大阪にペスト発生。
 5. 19—婦人市政研究会が東京瓦斯の値下げを要求しガス非買同盟結成。
 5. 22—海軍飛行艇2機が横須賀〜サイパン間の飛行に成功。
 6. 25—東京交通労働組合(東交)結成。
 6. 26—長崎県島炭坑で出水、42人死亡。8. 5北海道上歌志内炭坑でガス爆発、76人死亡。
 7. 1—婦人と少年の深夜業を廃止。改正工場法施行。
 8. 10—全国で暴力団員884人を一斉検挙。
 8. 15—ヴラディヴォストークの第2回汎太平洋労働組合会議に山本懸蔵らが参加。
 8. 19—ドイツの世界一周飛行船ツェペリン伯爵が霞ヶ浦に到着(8. 29出発地レークハーストに着陸)。
 8. 27—東京中央放送局が求人求職の放送開始。
 9. 12—東京市、市電従業員約2,000人を整理。
 9. 15—東京〜下関間の特急を「富士」<桜>と命名。列車の愛称の始まり。
 9. 16—総同盟の第3次分裂。労働組合全国同盟を結成。
 9. 18—浅間山が大爆発。
 9. 30—鹿児島県大島郡に台風。全壊家屋1,089戸、半壊1,803戸、沈没船舶120隻。
 9. —カフィー・バーが1926年末5,093軒から7,532軒に激増(警視庁管下)。エログロ・サービス。
 10. 20—東京・日比谷公会堂が開場。
 10. 22—東京市が知識階級の失業登録を開始。
 11. 5—ラジオの全国中継開始。
 11. 24—家賃地代値下げ全国同盟創立。
 11. 27—秋田県前田村の小作争議、争議団が警官隊・暴力団と乱闘。
 12. 16—アメリカの映画俳優ダグラス・フェアバンクス来日。
 12. 26—日本ゼネラル・モータースの1,300人、解職反対のスト。
- この年一ひどい不景気のため就職難、見切り品、均一品、特価品などの商法が日常化。
この年一流行語：《緊縮》<大学は出たけれど>《オプジェ》<カジノ>《ステッキガール》<ターミナル>《モダンライフ》。
この年一流行歌：《東京行進曲》《毬と殿様》《浪花小唄》。
この年一映画：《首の座》《灰燼》《浪人街第三話》《生ける人形》《摩天楼争闘篇》《紐育の波止場》《四人の悪魔》《人生の乞食》。

世相

- 【マネキン倶楽部】 28年に上野公園で開かれた御大典記念博覧会の高島屋陳列場ではじめて3人のモデルが登場。このシーンを演出した山野千枝子は翌29年2月に東京マネキン倶楽部を発足させた。草創期のマネキンガールは9人。
- 【説教強盗を逮捕】 2月23日、26年7月末から計65件の強盗、窃盗を働いた左官職人妻木松吉(29歳)を逮捕。深夜寝ているところに侵入し盗難防止の説教をして金品を強奪、時には婦女子に暴行し世間を騒がせた。当時の《東京朝日新聞》(2月24日)には、<4年越しに帝都の内外をあたかも通り魔のごとく出沒し、判明せるもののみで前後60回にわたって襲ひ、400万の府市民を極度に戦りつせしめた>とある。犯人妻木は服役し、釈放後防犯活動に活躍した。
- 【ドンの廃止】 約60年の間1日も欠かさず撃ち続けてきたドンがいよいよ3月31日で廃止されることになった。なにぶんドンの響きは離れて聞けば大して強く響かないが、旧本丸跡にあるので宮城内には非常に強く響くので、はなはだ恐れ多いのと、一つにはドン1発には19円もかかり経費の上からもこの大時代的なものは廃止することになったのである。ドンの代りには、新時代的なサイレンを用いることになり、これは来たる5月ころでなければ設備ができないから結局東京市民は60年目に初めてドンのない日を約1ヵ月持たなければならぬわけだ。サイレンは本所公会堂、小石川高等学校、麻布南山小学校の3ヵ所に備え付けられるが、これは陸軍技術本部で飛行機襲来の警報に案出した機械をそのまま時報に実地応用するので、この設備費1万3,900円、1ヵ年の経費6,000余円に上る見込みである(《東京朝日新聞》3月24日)。
- 【カフェーの大衆化】 12月に銀座の交詢社ビルの1階に大阪のカフェー<サロン春>が進出。ついで<美人座><日輪><赤玉>が登場し、東京流のオツにすましたサービスが大阪流の直接的な濃厚サービスに駆逐されてくる。<女給の多くはノーズロで「オルガン・サービス」などというものもあった。これはボックスのなかで、1人の女給が数人の客の膝の上に身を横たえる。客は各自彼女の肉体の好きな部分に手を触れると、バスからソプラノまでさまざまな音が彼女の口から出てくるという仕掛である。また、その場で肉体的な取引がおこなわれる例も少なくなかった>(大宅壮一)。
- 【性病薬の広告】 <六〇六号一回一円。平日二円、毎月六の日、性病撲滅の為、右価格にて下記診療所に託す。直接受診あれ。下谷入谷三七一 マ六の日会長外科花柳病社団法人簡易診療所>。<六〇六号>とは佐々八郎が、エールリヒとともに1910年ヴィースバーデンの内科学会で発表した梅毒の特効薬(サルバルサンは商品名)。



◎耳隠しが流行のカフェーの女給さん。

1930 昭和5年

政治

1. 21—ロンドン海軍軍縮会議開会。日本全権若槻礼次郎・財部海相が出席。
1. 21—衆議院解散。
2. 11—愛国勤労党結成(津久井竜雄、天野辰夫ら結成)。8月津久井ら脱退、急進愛国党結成。
2. 20—第17回衆議院議員総選挙(民政党273・政友会174・国民同志会6・革新党3・無産諸派5)。
2. 26—共産党員、全国で大検挙(7月までに約1,500人検挙、起訴461人)。
3. 7—枢密院審査委員会、国際労働条約批准否認を決議。
4. 2—ロンドン海軍軍縮会議で補助艦の比率に関し、日英米の妥協成立。4. 22調印。
4. 20—末次信正海軍軍令部次長、山梨勝之進海軍次官にロンドン条約不承認の覚書送付。
4. 21—第58特別議会議召集(〜5. 13)。
4. 25—犬養毅・鳩山一郎(政友会)、衆議院で、ロンドン条約締結に関し、加藤寛治海軍軍令部長が国防上疑義ありとして天皇に帷帽上奏(4. 2, 6. 10)したのを政府が強行したのは統帥権干犯として攻撃(統帥権干犯問題)。
5. 10—衆議院、婦人に公民権を認める(国政への婦人参政権は除く)市制・町村制等改正案可決(貴族院で審議未了)。
5. 30—満州の間島で朝鮮人、反日武装蜂起(間島5・30事件)。
5. —愛国社・政教社共催でロンドン条約反対演説会を開く(このころ右翼団体の反対運動活発化)。
6. —内務省立案の労働組合法、各地の経済団体が反対運動。
7. 2—無産4派(労働党を除く)、労働組合法獲得をめざし共同闘争委員会を設置。
7. 20—全国大衆党結成(日本大衆党・全国民衆党・無産政党統一全国協議会の合同。委員長麻生久)。
8. 25—全国町村長会臨時総会、農村救済宣言を議決。
8. 29—労働党大阪連合会、党解消を決議、除名される。10. 21河上肇ら党解消論を発表、除名される。
9. 17—枢密院審査委員会、ロンドン条約批准を可決。10. 1枢密院本会議可決。10. 3財部海相辞任。
9. 下—橋本欣五郎陸軍中佐ら、桜会結成。国家改造のため武力行使も辞せずと決議。
10. 26—台湾台中州霧社で高砂族が反日反乱(霧社事件)。軍隊が出動、鎮圧。
10. 27—ロンドン条約批准書寄託式。浜口首相・マクドナルド英首相・フーヴァー米大統領、各首都から軍縮記念放送。
10. 29—政府、中国の正式名称を支那から中華民国に変更すると決定。
11. 9—ロンドン軍縮条約による兵力欠陥を補う海軍補充計画計画案、安部海相・井上蔵相了承。
11. 11—政府、31年度総予算案14億4,800万円と海軍補充計画3億9,400万円を決定。
11. 14—浜口首相、佐郷屋留雄に東京駅頭で狙撃され重傷(31. 8. 26死去)。11. 15幣原外相、首相臨時代理になる。
12. 15—東京の新聞社15社、政府の疑獄事件関係の記事差止め、記者不法拘引などの言論圧迫に抗議の共同声明。12. 18安達謙蔵内相、陳謝を声明。
12. 24—第59通常議会召集(〜31. 3. 27)。

経済

1. 7—大蔵省、29年度貿易入超額6,760万6,000円と発表(前年に比し入超1億5,675万4,000円の減少)。
1. 11—金輸出解禁(金本位制への復帰、当日の兌換請求額約20万円)。
1. 16—日銀、1. 15までの正貨兌換高124万6,395円と発表。
1. 21—農林省、29年度米実収高5,972万5,460石と発表(前年に比し18万石弱の減少)。
1. 21—臨時産業審議会官制公布。
1. 21—米ナショナル・シティ銀行、金解禁後初の正貨現送(本年中の金流出高2億8,675万円)。
1. 28—内務省社会局、29. 11. 1現在の全国失業者総数を発表(調査人口1688万5,406人中30万195人)。
2. 22—鹿島組設立(1840年からの個人企業を改組、のちの鹿島建設)。
3. 3—大日本紡績連合会・輸出綿布同業会など、インド綿布関税引上げ反対の共同声明。
3. 3—大蔵省、中小商工農業者に預金部資金5,000万円の低利融資を決定。
3. 8—政府、糸価安定融資補償法の発動を声明(4. 5〜6. 10、総額1億492万5,000円)。
4. 5—1本年度追加予算を公布(前年度実行予算より7,242万円縮減、一般会計は公債非募集)。
5. 30—浜口首相、地方長官会議で国産品愛用を奨励。
6. 2—臨時産業合理化局官制公布(産業合理化政策の実施機関)。
7. 1—産業合理化局、優良国産品100種を選定・発表。
7. 4—生糸価格、1896年以来的の新安値となる(アメリカの生糸消費激減のため)。
9. 26—横浜正金銀行、正貨現送を開始(政変と金輸出再禁止懸念によるドル思惑買いへの対応。いわゆるドル買問題起こる)。
9. —日本興業銀行、政府の指示に基づき特別産業資金融通を開始。
10. 1—鉄道省、列車時刻を大改正・列車速度のアップ(特急列車燕号の運転開始)。
10. 3—米価暴落し、大阪堂島、東京米穀取引所の立会休止。
10. 3—国債シンジケート銀行設立、産業調査協会を設立(産業金融円滑化のため)。
10. 4—郡山合同銀行休業、ほか年に年末までに地方銀行12行休業。
10. 15—日本商工会議所、金輸出再禁止・平価切下げ論に反対を表明発表。
10. —生糸価格、100斤500円台に下落。
11. 6—自由通商協会日本連盟支部、国産品愛用宣伝に反対の声明書を発表。
11. 10—大蔵省主税局、軍縮剰余金による減税案を決定(31年度900万円、32〜36年度2,500万円を割当て)。
11. 12—臨時産業審議会、官民製鉄合同案答申。
12. 5—政府、失業対策公債発行を決定(3,400万円、非募債方針の放棄)。
- この年—世界恐慌の波及によりいわゆる昭和恐慌。

国際

1. 21—ロンドン海軍軍縮会議開催。4. 22米英日仏伊5ヵ国、ロンドン海軍条約に調印。
1. 28—〔スペイン〕プリモ・デ・リベラ首相辞任。仏へ亡命。3. 16死去。
2. 3—〔ヴェトナム〕ヴェトナム共産党結成。
2. 10—〔ヴェトナム〕安沛(イエンバイ)で民兵の反乱事件発生。以後反仏運動高まる。
2. 23—〔ドミニカ〕反乱起こりトルヒョ、大統領に就任。
3. 12—〔インド〕ガンディ、英印印事会議を拒否して第2次不服従運動開始を宣言。
3. 18—ジュネーブ国際経済会議開催。2年間の関税協定調印。
3. 27—〔独〕ミュラー内閣退陣。3. 28ブリューニング内閣成立(共産党とナチスの反対に大統領緊急令入権で対処)。
4. 18—〔中〕英と威海衛還付協定調印。
5. 5—〔インド〕ガンディ逮捕。反英暴動激化し軍隊が出動。
5. 22—〔仏〕一方的にシリア制憲議会を解散、共和制と外交権留保のシリア憲法を公布。
6. 8—〔ルーマニア〕カール2世即位、専制開始。
6. 11—〔中〕中共、都市武装蜂起路線を決定(李立三コース)。
6. 17—〔米〕輸入原料に高率関税。
7. 18—〔独〕国会、社民党提出の大統領緊急令停止動議可決。ブリューニング首相、国会解散。
7. 21—〔ソ〕西欧列国との同盟を推進するリトヴィノフ、外務人民委員就任。
7. 27—〔中〕彭德懷指揮の紅軍、長沙占領。
7. 29—長沙ソヴェト政府樹立、8. 4国民政府軍、長沙奪回。
7. 30—〔ポルトガル〕サラザール指導下にファシズムの政党結成(唯一の公認政党)。
9. 1—〔中〕汪兆銘・閻錫山・馮玉祥ら、北京で反蔣北方政府を樹立。
9. 14—〔独〕国会選挙(社民143・ナチス107・共産77)。
9. 18—〔中〕張学良、和平統一・中央擁護を宣言し、北京進出。北方政府崩壊。
9. —〔中〕中共、李立三コースを停止。
10. 5—アテネで第1回バルカン会議開催。
10. 10—〔中〕国民政府軍、洛陽入城。
10. 14—〔フィンランド〕ファシストのラプア団、反共クーデタに失敗。
10. 20—〔英〕《パスフィールド白書》公表。パレスティナへのユダヤ人移民禁止を勧告。
10. 22—〔エジプト〕23年憲法廃止。国王に権力集中の新憲法制定。
10. 26—〔ブラジル〕ヴァルガス、大統領就任。
11. 12—〔インド〕第1次英印印事会議開催。
11. 16—〔イラク〕独立と2年後の国際連盟加入を認めた英との条約を批准。
12. 12—〔スペイン〕共和党が反乱。
12. 27—〔中〕国民党軍の第1次掃共戦開始。